

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



# 森の中の高知駅



## 高知を愛する皆様へ（令和2年5月号）

「お知らせ」令和2年5月1日

穀雨（種まきや田植えの時、4月19日）、立夏（5月5日）と季節は止まることなく過ぎていきます。新型コロナウイルスの流行下、皆様いかがお過ごしでしょうか？

「森の中の高知駅」の共同活動は、3月、4月とも休ませていただきました。当分は個人個人の自主出勤？ということで植栽のお世話をお願いいたします。



↑新緑が鮮やか、南口3志士像前のイロハモミジ

右は北口ロータリー緑地のヒメシヤラ、やや晩生（オクテ）です。

### トピックス＜新型コロナウイルス雑感＞

○ 昔、キリスト教会の運営する幼稚園に通っていたころ、墮落した人類を神さまが洪水で滅ぼされ、敬虔なノアの家族だけが方舟（はこぶね）で逃れて救われたというお話を先生から聞いて、幼心に恐ろしい思いをいたしました。この度の新型コロナ禍ですが、「ノアの方舟」の

.....続きは次ページをご覧ください.....

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：[m.nakata@ak.wakwak.com](mailto:m.nakata@ak.wakwak.com)

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：[kumont2@yahoo.co.jp](mailto:kumont2@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

伝説がふと頭をよぎったという声が聞かれます。世の中に対する天の警告ではないかと・・・。

○ 来年のNHK大河ドラマの主人公は、事業には仁義・道徳が相伴わなければならぬ（「論語と算盤」）、と力説した明治の大実業家渋沢栄一だそうですね。一等国に成り上がって浮かれ、お金がすべて、イマがすべて、自分さえよければの風潮に流れる時勢に対する翁の警鐘を、百年を経た令和の世の人々はどうか受け止めるでしょうか。

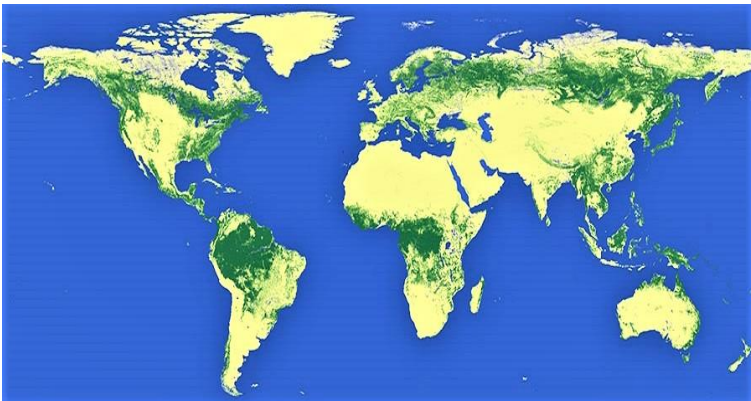
○ 新型コロナウイルスの発生源は「武漢ウイルス研究所」だという報道が米国から流れました。中国政府は否定しており真否は闇ですが、まるで事件を予見したかのように、遺伝子編集など生命科学研究の暴走の恐ろしさを早くから世に訴えていたのが、ノーベル賞学者の山中伸弥教授です（NHKスペシャル「シリーズ人体Ⅱ 遺伝子」=2019年5月12日放映）。人類の存続を脅かしかねないという意味で、CO<sub>2</sub>排出による気候変動に劣らぬリスクかもしれません。（詳細は <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/67554?page=2> ご参照）。

## 「緑のまちづくり」を考える（38）

### 管理放棄で山が荒れ放題—森林比率世界第3位の日本だが

南米、豪州、東南アジア、アフリカ…各地で乱伐が行われて毎年数百万ヘクタールの森が失われ、陸地面積に対する森の比率は1990年の31.6%から2015年には30.6%に減少しました。CO<sub>2</sub>を吸収する森の減少・劣化が地球温暖化の要因の一つとされています。（国連統計）

一方、日本の森林比率は68.5%（高知県は84%=全国一）で、フィンランド、スウェーデンに次ぐ世界第3位を維持して「緑の列島」と呼ばれるほどですが、森の6割を占める民有林の過半が「管理放棄」で荒れ放題の状態とみられています。



世界の森林分布図（宇宙航空研究開発機構＝JAXA 作成）



「緑の列島」日本（同左より）

「管理放棄」は田畑の「耕作放棄」問題以上に深刻で、先人が育ててきた緑の資源が宝の持ち腐れになるばかりか、洪水や土砂崩れなどの災害を招き、また、大切な水源を危機に陥れます。

「管理放棄」の理由は、高齢化等による後継者・担い手不足もありますが、根本は、長年手入れして木を切り出しても採算に合わない（生産性の低さ）からです。生産、流通、補助金のあり方など、全般にわたってメスを入れなければどうにもならない現状です。

大転換を果たさない限り、国産材の供給不足を補うため（木材の自給率は37%）、毎年5千万立方メートル（立ち木換算数千万本）もの外材輸入が続いて、世界の森林消失に手を貸すこととなります。わが国の森と林業の再生はおろか、大国が率先して取り組まなければならない地球環境問題への貢献など望むべくもありません。（数字は林野庁・国交省統計より、参考文献：国際派日本人養成講座＜「三方悪し」の現代林業＞ 伊勢雅臣）